

# 私学の休校対応

新型コロナウイルス感染防止のため、私立中高も2020年3月頃から休校措置が取られました。私学の先生方はどう考え、どんな対応をしてきたのでしょうか。先生方のメッセージとオンライン授業の実際をご紹介します。

## オンライン授業が すべてではない

新型コロナウイルスによる休校に関して、多くの私立中高は独自に対応を模索し、判断してきました。休校時の対応についてはオンライン授業が注目され、どんなツールを使っているのかに終始する記事も他誌では見かけます。しかし、ICTの充実が私学の価値のすべてではありません。ICTの活用は教育の一面でしかなく、私学の教育の良さは、先生方がどういった状況でも生徒に何ができるかを真剣に考え、教育に対して真摯に向き合っていることにあります。これから志望校を選ぶ際も、ICTの充実だけで価値判断をせず、各校の教育の本質に目を向けてほしいと思います。

休校時に在校生に向けて出されたメッセージのなかから、特にすばらしかった●麻布と●明星学園、●恵泉女学園の先生ものを掲載しました。また、オンライン授業が実際どのような形で行われているのか、●青山学院と●桐蔭学園の例をご紹介します。

## 休校時に出された 在校生へのメッセージ

### ●麻布

校長 平秀明先生

#### 「生徒諸君へ」

周知のように今世界では新型コロナウイルスが猛威を振るい、日本でも感染者が増え続けています。現在、本校生徒や保護者、教職員に感染者は出ていませんが、ワクチンや特効薬がないことから今後も感染の増大が懸念されます。

私たちが、大切な授業や試験を追いやってまでこのような措置を取ることにしたのは、諸君の安全を第一に考えているからです。登下校の電車内やターミナル駅で諸君がウイルスに感染したり、それが原因で周囲の人を罹患させたりする状況を排除し、新年度に元気いっぱい諸君と学校生活を送れるよう期待しているからです。

自宅での勉強はふだん学校で受ける授業とは違い、自分の興味関心を広げたり、日頃読めなかった本を読んだり、弱点を鍛え直したり、また、関心のある事からを深

く追究する良い機会ともなりません。英国の生んだ偉大な科学者アイザック・ニュートンは、学生時代にベストの流行で大学が閉鎖となり、ロンドンから離れた郊外でゆとりある思索のなかで万有引力の法則を発見したと言われています。

諸君に与えられたこの時間をぜひ有意義に過ごしてほしいと思います。

※2020年2月29日の同校HPより抜粋



●麻布(東京都港区)

「自分で考え判断し行動できる人物の育成」が目標の自由闊達な校風。「青年即未来」を掲げる。

☎ 40ページからご覧ください

『新型コロナウイルス  
感染拡大に際し、  
君たちに伝えたいこと』

このような事態になり、学校とは何かということを考えさせられます。教育の基本は顔と顔を向き合わせて初めて成立するものではないでしょうか。知識を得るだけなら、この時代学校は必要ありません。もちろん、遠隔で顔を見ながらオンライン授業をすることも可能です。しかし、それはある目的意識があつてはじめて成り立つものであり、小中学生の学校教育をすべてカバーできるものではありません。(一方で、教育の一領域、外に開かれた学校を作っていくことにおいてオンラインによる教育の大きな可能性も十分理解しており、学園としても今後研究をさらに進めていかなければなりません)。それは電源を簡単にはOFFできない学校場、授業場の存在です。

学校は必ずしも自分にとって都合のよい場(表面的な意味ですが)とは言えないでしょう。少なからず気の合わないクラスメイトがいたり、苦手な先生がいたりするも

のです。しかし、そのような自分にとって都合な他者を排除できない中で格闘しつつも共同し、一つ一つの山を乗り越えていく中で、他者を発見し、自分を発見していきます。その結果として人は、多様な個の集まりである集団の中の個人として認められ、成長していくのではないかと思うのです。

新型コロナウイルスについては、未解明な部分がたくさんあります。不安をおおるような言葉に踊らされて思考停止となつてはいけません。不安をあおるような言葉に踊らさる人が、しっかりと正しく恐れ、一人一人が対応しなければなりません。少なくともはつきりしていることは、このウイルスは感染力が非常に強いということです。そして、重症化した時の病状悪化の進行が極めて速いということです。自ら感染しないように努めなければなりません。

そしてもう一つ大切なことは、若者にとっては感染しても軽症であつたり、症状のあらわれない場合が多いということです。これは安心材料ではありません。逆に大き

な不安材料とも言えるのです。なぜなら、自分自身が知らないうちに感染し、さらに知らないうちに自分が誰かを感染させてしまつてい

る可能性があるからです。しかし、それははつきりと目に見えません。目に見えた時には、すでに大変なことになっていきます。その時、どんなことが起こるでしょうか。想像力が問われます。

テレビのニュースを見てみると、街の声として、「自粛だから、禁止ではないでしょ。」「やめた方がいいとは思うけど、やっぱり自分は、今楽しい方を選びます。」「はつきりと禁止といつてくれれば従うけれど……」といった言葉が聞かれます。若者だけとは限りません。社会には様々な立場の人がいます。完璧な措置などあるはずもありません。しかし、少なくとも明星生は、人任せな言葉で自分をこまかし、自分で考える行為を放棄しないでほしいと思います。それこそが明星生としてのプライドです。

今回の事態は、世界中ののだれにとつても大きな試練です。その不安は人種や社会的地位を超えて広がっています。自分さえよければ、自分の国さえよければといった考えは通用しません。だからこそ問



●明星学園(東京都三鷹市)  
個性尊重・自主自立・自由平等が教育理念。独自の対話型授業や、木工・工芸などの表現教育は必見。  
☞ 64ページからもご覧ください

※2020年4月6日の同校HPより抜粋